

第4回  
浅草地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：令和6年2月7日（水）  
14：00～15：30  
場所：台東区民会館9階ホール

14時00分 開会

1 開 会

2 会長挨拶  
<岸井会長挨拶>

3 議事

○事務局 続きまして、次第の3、議事に入る前にお断りいたしますが、本会議は設置要綱第8条の規定に基づき、会議及び会議録を公開としております。なお、傍聴の方が11名お越しでございますので、そのままご入場いただいております。

また、会議の資料及び議事録は内容を確認し、発言者のお名前を伏せた上で、区のホームページにて後日公開させていただくことをご了承願います。

それでは、以降の議事につきましては、岸井会長よろしく願いいたします。

○会長 今日は7つの項目があります。まず、議事（1）ビジョン策定のスケジュールと議事（2）第3回策定委員会の振り返りについて、事務局よりご説明お願いいたします。

（1）ビジョン策定のスケジュール  
<事務局より資料1について説明>

（2）第3回策定委員会の振り返り  
<事務局より資料2について説明>

○会長 ありがとうございます。前回の振り返りと、全体のスケジュールを長く取らせていただきたいというご説明でした。何かご質問があればお受けしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、まちづくり部会と基盤整備部会で検討を重ねていただいた内容について、またそれを踏まえた社会実験の提案まで、一括してご説明をお願いしたいと思います。スケジュール等も含めて、ご意見があれば最後に伺いたと思います。

（3）まちづくり部会の検討状況  
<事務局より資料3について説明>

（4）基盤整備部会の検討状況  
<事務局より資料4について説明>

(5) 雷門通りにおける社会実験  
<事務局より資料5について説明>

○会長 ありがとうございます。改めて、資料1「ビジョン策定のスケジュール」をご覧いただきたいと思います。今日は策定委員会ですが、部会として基盤整備部会とまちづくり部会があります。それぞれ、こちらにいらっしゃる先生方にも入っていただいて進めています。まちづくり部会としてはこれまで、将来のイメージであるとか、まちの将来像というものを議論されて、キーワードをいくつかお出しになっているように思います。基盤整備部会では、東と西の回遊拠点、あとは説明のあった東のほうですが、回遊性や水辺の関係性について、議論しています。来年度もこれを続けてさらに話題を深めていって、具体的なまちの将来像のイメージ、あるいはまちで行うべき活動のイメージ、そしてそれを支える基盤のイメージ、これを固めていくということです。それでは、意見交換をしたいと思いますが、最初に先生方から追加の説明あるいはご意見があればいただきたいと思います。

○委員 まちづくり部会の検討は、徐々にキーワードや何を光らせていくべきかということが見えてきていると思います。今回は、ビジョンと名の付いた計画ですので、なぜするのか、なにをするのか、という why、what の部分が大事かと思えます。その一方で、事業について、誰が、いつ、どこでするのか、どこまでビジョンに書き込むか、は今後の検討事項かと思っています。20年先は、どういった災害があるか分かりませんし、経済状況も分からないという不確実性がある中で、緻密に組み立てていくことは難しいと思うのですが、優先順位や時系列についての検討は必要だと思っています。少し矛盾しているかもしれませんが、まずは、なぜするのかという大枠をコンセプトとして固めていくことと、一方で誰が、いつ、どうやって、といった具体的な内容については、考えられる範囲で考えていくことが大事だと思っています。もう1点、基盤整備部会で検討していただいている拠点についてですが、東は明確なものが見えつつあるかと思うのですが、西の方は目玉となるものが今はないのかなと感じております。一方で、地元では、浅草十二階、凌雲閣をシンボルにまちづくりができないかを検討し始めていると伺っています。このビジョンにどこまで盛り込めるのか分かりませんが、地元ではそういった検討をされていると把握していましたので、申し上げさせていただきました。

○委員 まちづくり部会については、今コメントがありましたので、私からは3月に予定している社会実験について、追加の説明をさせていただきます。パークレットですが、元々はアメリカのサンフランシスコで始まったもので、パーキングメーターを止めて、そこを公園のような空間にするという取組ですが、それを今回浅草の雷門通りでやることになりました。先ほど、まちづくり部会では、大きな将来のビジョンを描いていくという話がありましたが、小さいことからアクションを進めていくという、ビジョンとアクションの両輪でまちづくりを進めていくことが大事

かと思っています。今回、その小さなアクションの第一歩として、パークレットの社会実験を企画しております。私の研究室の学生と進めておりました、今回は雷門通りの20mほどの区間であまり大きな空間ではないのですが、観光客で混雑していますので、歩道の混雑解消や広場的な空間が今後求められてくるのではないかと、ニーズの把握のほか、どういう使われ方をするのか、どれくらいの人溜まるのかという検証も行いたいと考えております。今日も先ほど提灯屋さんに行って、提灯のオーダーメイドの発注をしてきたのですが、地元の業者さんにも製作の一部をお願いするなど、地域を巻き込みながら進めたいと考えておりますので、一週間という短い期間ですが、ぜひお近くを通りかかった際は、使ってみてご感想をお聞かせいただければと思います。

○委員 基盤整備部会の検討状況は資料4の通りであります、大きな方向については参加されているメンバーで相違はないと思います。観光客の混雑の状況、地域の方が歩きにくい、住みにくいということに対して、商業ポテンシャルを落とさないようにしながら、どのように上手く歩いてもらうのか、それに向けて必要なインフラを考える、という視点では、大きな違いはないと思っています。まちづくり部会で考えていただいているビジョンに直接関係するような基盤整備と、それとは関係なく、必ずやらなければいけない基盤整備の両方があると改めて思っています。例えば、駅の結節機能の強化について、今日も大きなスーツケースを持った外国人の方が苦労して階段を上り下りしているところを見てきましたが、これはビジョンとは関係なく、観光のまちとしてやらなければいけないことかと思っています。それから広場空間について、いざ地震や火災が起きたときにどこに逃がすのかということについても、真剣に考えなければいけない状況になっていると思います。今挙げたようなことは、ビジョンとは関係なくできることですが、ビジョンと合わせて一緒にやることで効果的にできるという観点からは、まちづくり部会の方で、こういうビジョンを実現したいので、こういったインフラが欲しいという応援演説が欲しいと思っています。それから、基盤整備部会としては、プロジェクトファイナンスというのでしょうか、どういうお金をどういう方法で持ってくるのかということをお密に考えておかなければ、タイミングを逃したり、手戻りになって余計なコストがかかってしまったりということがありますので、そういったことを意識しながら議論を組み立てなければいけないと感じています。また、東西の回遊拠点の位置付けについて、東は緊急性が高いといいますが、早急になんとかしなくてはならないという意識はあるのですが、西についても、事業の時間差はあるとしても、なるべく一体のものとして、地上と地下とデッキで東西の拠点を上手く結んでいながら、人々のアクセシビリティを高め、商業ポテンシャルを落とさず、地域住民の方も快適に過ごせる、そんな姿をどのように考えるのかということが、基盤整備部会のポイントだと思っています。いずれにしても、まちづくり部会からの、こういうまちを実現したいというものを積極的に受け止めて、議論に活かしていきたいと考えています。

○会長 ありがとうございます。参考資料の1と2についての説明はいかがでしょうか。

<事務局より参考資料1及び2について説明>

○会長 ありがとうございます。浅草地区ベースマップをご覧いただくと、今回検討しているエリアの中に様々な資源や特徴ある空間が存在するということが表現されているのだと思います。まちづくり部会として、どういうまちにしていくのか、色々なキーワードが出ていましたが、それを具体的にどういうアクションとして展開していき、何を訴えていくのか、それに加えて基盤をどのように埋め込んでいくのか、ということが一体となって、最終的なビジョンが出来上がるということかと思えます。部会の内容も踏まえつつ、皆様からご意見をいただきたいと思えます。

○委員 浅草寺を中心として、大きな通りに囲まれた地域を考えたときに、千束通りを中心とした北側、国際通りを境にしてその西側、それから雷門通り、南の蔵前という区域に分かれています。最初は、観音様が中心で、観音様の人出を全体に行き渡るように努力をしなくてはということで、観光を中心に考えてきました。しかし、それだけではいけないので、部門を分け、周辺地域や交通などのチームで検討し、具体的なものができたら行政に相談するというかたちでやってきたのですが、スカイツリーが出来てから、客層も年齢層も変わってきました。どんどん自分の考え方が遅れてきたなということを感じ、3、4年前からは、この地域の若い意見を聞こうということで、コンサルタントの方と一緒に、この地域を良くするにはどうしたら良いのかというワークショップを始めました。最初のうちは若い方の意見も出てこず、集まりも悪かったのですが、最近は若い方が出てくるようになって、積極的な発言も出てきております。例えば、観音裏の地域はどういうかたちで人を集めようとするのか、そういったことも地元の方をお願いして調べてもらいました。また、私も若い頃からお客さんに言われていましたが、浅草は京都のように、ふとまちなかで腰掛けて一服できるような場所がないと随分言われました。それを何とかやらなくてはいけないということで、興業街が一時空っぽのような状態になってしまいましたから、リニューアルして広場のようにして、ベンチを置いたら良いのではと言ったのですが、20年ほど前の当時は、寝泊まりするような人がいるので駄目だということを警察からも行政からも言われまして、イス一つ置けない状態が続きました。しかし、最近では特区ができて、責任者が衛生的な面から何から目を光らせるようになりましてから、寝泊まりするような人は減りまして、今は土日にはイス、テーブルを置いて、飲食もできるようになっています。あの場所は元々交通規制があって車が入ってこない状態ですから出来ましたが、今度は雷門通りで社会実験をやるということで、興味を持って見えています。また、南側についてですが、雷門の正面の並木通りは幅員が大きく、地下には区営の駐車場がありますが、

そこに蓋をすると広場にできるのではないかという提案も若い方から出ています。また、東側の花川戸周辺ですが、墨田区の方は、東武鉄道を中心としてガード下が整備されましたが、台東区側の隅田公園は何もないということで、お尻を叩かれているようなところがあり、何か考えないといけないということで議題にしています。小規模ではありますが、まちの動きがあるので、ここに専門的な知見をいただいたり、手を伸ばしていただいたりすれば、少しずつでも動いていくのではないかと考えておりますので、よろしくお願ひします。それから、私は六区で50年ほど商売をしているのですが、住まいは市川なので、京成線を利用しています。電車を降りて駅から出てくるまで、若いときは体を鍛えるためだと思って、平気で階段を上ってきていたのですが、さすがにここ5年ほどは大変です。余計にお金がかかってしまうのですが、改札口まで上がってからすぐにメトロの改札に行き、180円の切符を買ってホームを通り抜けしてくると比較的楽に来られるので、そうしています。外から来る人達は、大きなスーツケースを持っていますし、小さい子供がいたら大変だろうと身にしみて感じております。これも非常に大きな宿題かと考えております。

○会長 ありがとうございます。観光客の皆さんが、喜んで帰っていただかなくてはいけないですね。今は観光に来た方が自分で発信して、それが世界中の評判になっていく時代で、少しでも不都合があると世界に発信されてしまうので、最後のお話のように、1つ1つ順番に解決していきたいと思ひます。

○委員 今の説明の中で、東と西の話はありましたが、北側の話はあまり入っていないように思ひました。山谷も吉原もあって、中々人が入ってこないところです。私としては、北部の吉原に関して、伝統文化の中心として、伝統芸能の保存や育成をやってきました。来年からは大河ドラマべらぼうが始まります。区のほうでも予算立てをして、区民会館の9階をドラマ館にしたりするという事なので、回遊の拠点づくりとして、吉原の町会会館に蔦屋重三郎の書店を再現して、ミニ展示などをできないかお願ひしたいと考えています。回遊性については、隅田沿いに水上バス乗り場やカフェがありますが、あまり活用されていないですし、東武のミズマチからの流れも切れてしまっています。待乳山も昔の吉原の玄関口として色々な文化があります。吉原の人間としては、べらぼうという一大チャンスが来ているということで、回遊性を考えて、伝統文化の整備や受け入れる態勢の準備も考えていますし、伝統文化の再発見などを発信できないかと考えていますので、優先順位を繰り上げていただひて、チャンスを活かして吉原も1つの拠点にできないかと思ひています。また、その拠点も1年でやめてしまうのではなくて、その後も活かして文化の発信の拠点にしたいという考えもありますので、よろしくお願ひします。

○会長 ありがとうございます。今お話のあったように、ドラマなど何かをきっかけにし、ある種のタイミングをつかまえて、努力して、その結果として少しずつ地域が変わっていく。ただ一発で終わってしまうと駄目なので、その次もある程度戦略的に仕掛けていくことが必要なのだと思います。先日、上野でもシンポジウム

を開催しましたが、2025年が寛永寺さんの建立400年で、その後は銀座線が100年など、キリの良いところを目指してみんなで何かをやっていくということが、結果的には地域の力を上げていくことにつながるのだと感じました。

○委員 朝の8時、9時など早い時間に、多くの外国人観光客が、観音様に来ていると聞いているのですが、私も見たことがないのです。ということは、浅草のまちは眠っているということではないかと思っています。もっと早く起きなくてはいけなだけなのかもしれませんが、もう1回観光客の動向を調査していただくと、また変わっているのかなと思います。もう1つ言いたいことは、都営地下鉄と東京メトロが地下で自由に行き来が出来ず、お金を払わなければいけないということです。昔の話ですが、駒形橋の先の銀行に取引に行く際に、途中で雨が降ってくると、地下鉄の駅で切符を買って、東武の駅まで出てくるようなことをしていました。これは1年に数回しかないのですが、お客さんに対してもフリーで浅草を歩くことのできるような方策を取っていただければと思います。また、このビジョンは20年先の計画ですが、TXが羽田までつながるのは40年先とされています。ビジョンとは20年のタイムラグがあるのですが、実現すると浅草に来る人の動向が大きく変わると思いますので、それを見据えて、受け皿をつくるような計画をしていただければと思います。

○会長 ありがとうございます。先ほど、鉄道事業者間で調整すればできることもあるのではないかという話がありましたので、あまりお金をかけなくてもできることは早急に進めることができると良いと思います。それから、観光客の動向を把握することは大事なことで、コロナで随分変わりましたが、ここに来てまた増えていますので、よく確認したほうが良いと思います。従来の観光地ではないところで体験をすることの価値が高まっているなど、色々な変化があると思いますので、浅草ではこういったことが起きているのか、確認できればと思います。事務局の方いかがでしょうか。

○事務局 今データを取りまとめているところですので、次回の会議の際に見ていただいで、変化の状況を共有できればと思います。

○会長 ぜひよろしく願いいたします。他はいかがでしょう。

○委員 小さいホテルがコロナ明けに大変増えています。朝の6時台から8時台までは、近くにあるコンビニに朝ご飯を買いに行き、その後ワゴン車で迎えが来て、荷物を積んで出ていくというようなことが、国際通りのあちこちで見られまして、地域住民からの苦情も出てきています。また、民泊が増えてくると、夜になると浅草には食事をしたり飲んだりという場所がないので、あちこちに分散して動いています。海外ではあまりないですが、日本では外でお酒を飲んで話しても問題ないので、皆さん喜んで道路でお酒を飲んでいます。観光で来る方の目的意識と、静かに暮らしたいと思う人、商売をしたい人など住んでいる住民の意識は真逆です。ツアーで来ていた人が、二度目、三度目に訪れると、今度はそこでの生活体験を味わいたくなってきます。そうすると、自分たちの生活環境に入ってきてしまいます。

このあたりをどのようにカバーしていくのか、観光客を呼ぶのであれば、オーバーツーリズムという言葉自体があってはいけないと思います。来たら来た分だけのカバーができるような施設が整っていなければ、呼ぶ立場にないと思いますので、その点についても考えてほしいと思います。それから、一箇所に人が集まりすぎることが問題として一番大きいと思います。以前の会議でも、人流データを見ると浅草寺と仲見世にすごく集中していましたが、商売をやっている方にお話を聞くと、人が入りすぎると、選んで買う時間がなくなってしまうので、商売は動かないという意見が出ます。我々が主催している酉の市でも、20万人を超えると熊手の売上が止まってしまう。どのように分散するのか、ハード面だけでなくソフト面も考えなくてはいけないと思います。ランドマークのようなものや、あれがやりたい、これが見たいという目的意識がなければ行ってくれないので、その目的意識をどのように持ってもらうのかということが大事かと思っています。六区は特区に指定され、キッチンカーがあったりイベントが開かれたりしていますが、そのイベントがひさご通りまでつながれば、人通りもつながると思います。言問通りをどのように渡るかという問題もありますが、例えば月に何回か通行止めにしてマルシェのようなものを開催すると、住んでいる人としても安く良いものが買えるということで、地域住民の了解が得られるようなイベントになるのではないかと考えています。その後は、川へ誘導するなり北へ誘導するなり引っ張っていけるのではないかと、各商店街と話し合っています。

○会長 ありがとうございます。従来の浅草寺から仲見世という大きな軸に対して、隅田川の軸、西側、ブロードウェイなど新しい軸がもう1つあると、全体が上手く分散してくれるのではないかとということです。それについては、ハードのみならず、ソフトにも取り組まなければいけません。基盤整備部会とまちづくり部会で上手く連携して提案できると良いと思います。他はいかがでしょうか。

○委員 今後の調査の方法について話すと、実はコロナ前に3年ほど浅草商店連合会が、台東区の補助をもらって、アンケートをまとめたのですが、観光課と共有されているのでしょうか。3年間のブランクがありますので、それとの比較がないとだめだと思います。例えば、浅草の全部のお店を網羅したような雑誌が過去にあるのですが、それと今を比べると、どの店がなくなってどの店が入ったのか、とても面白いと思います。コロナ直前にはドラッグストアがたくさんありましたが、コロナ禍でほぼ全滅しました。そしてインバウンドが戻ってきたら、結局別のドラッグストアが入っています。これはどういうことなのだろうと、そういったことのほうが具体的で分かりやすいと思います。アンケートは、聞く側が誘導してしまう可能性があるのですが、生のものを眺める方が本質について気づくことができると思います。インバウンドの方は、日本文化が好きで来ているのではなく、安いから来ているのです。我々も海外に行くときはそうだと思います。嫌いだと行かないですが、そこまで詳しいことは知らないと思います。面白いものや美味しいものがあれば人は集まるのです。浅草はまさにそうだと思います。ですから、文化を掘り起こして

プライドを持つことは決して悪いことではないと思いますが、楽しい面白いというものをもっと創造していくべきだと思います。雷門の反対側にある牛カツ屋さんは、いつも行列ができていますが、地元の人には行ったことがありません。浅草の老舗ではないのですが、恐らくネットによる誘導が上手なのではないかと思います。まちの栄枯盛衰の話ですが、1985年の千束通りは人がたくさんいて、夜まで潤って回遊性も高かったのですが、今は静かでマンションばかりです。それはなぜかということです。もっと本質的なことから調査しなければいけないと思います。せっかく色々な先生方が集まる機会なのですが、お互い一方通行だと思います。まずは先生方の本を買って、どんなことをおっしゃっているのか、どんな考えのもとにアイデアが出ているのかということを我々も知らなければもったいないと思います。先ほど述べたように、浅草商店連合会では全店舗を紹介しているような冊子もありますので、みんなで調べると参考になると思います。

○会長 先ほど観光客の動向の話がありましたが、商業はどうなっているのかについても把握しましょうということです。それから、お住まいの方も多くいらっしゃるの、住んでいる方は何を考えているのか、ということについても把握しなくてはなりません。皆さんのそれぞれの思いをどのように解いていくのか、具体的に考えてほしいということです。良い方法があれば先生方にご紹介いただければと思います。

○委員 商店街連合会では、戦後すぐに、浅草のキャッチフレーズとして、「観るまち・買うまち・食べるまち」という言葉をつくりました。その後、サンバカーニバルが始まる頃、ゲームセンターなども出来てきましたので、当時はまだホテルも少なかったのですが、「そして遊んで泊まるまち」という言葉もそれに付け加えました。

○会長 これをキーワードの1つとして、そういった浅草にしていただければと思います。オブザーバーの方からもご発言いただければと思います。

○オブザーバー 基盤整備部会、まちづくり部会で検討されている内容を拝見すると、色々な観点から検討されているので、そのまま続けてほしいと思います。特に回遊性について、回遊性を高めるための施設やエリアの境界を越えて連携しようということが見える絵になっていますので、進めていただければと思います。その中で、社会実験を進めるにあたって、周辺の色々な影響を調べるということが社会実験の目的の1つかと思いますが、それと合わせて、世の中に対して機運を醸成していくという観点もあります。スケジュールを見ると、単発的な印象もあるので、世の中への発信という観点も踏まえて今後どのように進めるのか、どういったことを目的にするのか、明確にできると良いと思いますのでご検討いただければと思います。

○会長 ありがとうございます。発信の方法も考えないといけないですね。若い女性に情報を伝えるには、インスタグラムが多いのでしょうか。何時頃に投稿すると読んでくれるのか分析して、そこを狙って面白そうな映像とコメントを出すと広

がっていくということもありました。他の場所でもそうですが、芝生を敷くと、宣伝していなくてもお母さんと子どもがやってきます。恐らく、お母さん方のネットワークがあるのでしょう。我々の時代の宣伝とは異なる情報伝達が起きておりますので、発信の方法を考えなくてはなりません。

○委員 歩行者の空間が全体的に不足していて、長期的に対応していくということもあると思うのですが、今回の社会実験はスポット的な取組みとして、まち側での使われ方をテーマにされていて、道路のリメイクは先の話だと思うのですが、その第一歩として、歩道側だけでなく車道に対してどういう影響があるのか、道路交通、車道の使われ方ということも視野に入れてほしいと思います。タクシーで乗り付ける人もいると思いますが、ガードレールで仕切られていますので、観光客にしてみると、もっと別の使われ方があるのではないかと考えているなど、今後のために色々なデータを集めていただければと思います。

○会長 ガードレールは急に変えられないので、渋谷では道路の再整備に合わせて、普段は通れないが、土日だけは外せるようにならないか、ということをやっています。色々な工夫を積み重ねて、それぞれのパートが上手く回るようにしたいと思います。約束のお時間になりましたので、今後の予定について事務局からご説明をお願いいたします。

#### (6) 今後の検討の進め方

##### <事務局より今後の検討の進め方について説明>

○会長 ありがとうございます。全体の委員会の前に部会もありますので、部会でもしっかりと議論いただければと思います。本日は色々ご意見をいただきありがとうございました。引き続き、各部会で今日の意見を踏まえて細部の詰めを行っていただきたいと思ひますし、色々な情報交換をしていただいて、ハードとソフトが相まって、全体を上手く回せるように頑張りたいと思ひます。それでは、事務局にお返しします。

#### 4 閉 会

○事務局 本日は、お忙しい中ご参加いただきまして、また長時間にわたり貴重な意見をいただき、誠にありがとうございました。

以上を持ちまして第4回浅草地区まちづくりビジョン策定委員会を終了いたします。ありがとうございました。

15時30分 閉会